

町の概要

菊陽町は、雄大な阿蘇を源にする白川の中流域の平坦地にあり、熊本市の北東部に位置しています。これまで豊かな自然と田園環境、そして恵まれた立地条件を生かした生活都市として発展してきました。総面積は37.46km²、総人口は40,000人を超え、平成27年の国勢調査では、県内第1位の人口増加率を示し、元気のある町として注目されています。

本町の前身である「菊陽村」は、昭和30年4月1日に、菊池郡津田村、菊池郡原水村、上益城郡白水村が合併し誕生しました。昭和39年に新産業都市建設促進法の指定を受け、工業化と農業の転換が進み、村民生活の高度化と相まって、昭和44年1月1日、町制を施行し「菊陽町」となりました。

町制施行当初は、熊本空港の開港、九州自動車道の開通による利便性の向上、熊本都市計画区域に指定を受けたことを契機とする「武蔵ヶ丘団地」などの住宅地の開発などで、熊本市近郊の一大住宅地へと変貌を遂げ、人口も大幅に増加しました。

その後も、菊陽バイパス（国道57号線）、町道菊陽空港線、国体道路南北線などの道路網整備、公共下水道事業や土地区画整理事業などの積極的な取り組みで、住宅地の分譲が進みました。光の森地区では、住宅だけでなく大型商業施設や店舗などが建ち並び、武蔵ヶ丘団地を含めた巨大な「街」ができています。菊陽バイパス沿いにも食品や衣料、雑貨などの商業施設が建設され、幅広い年齢層に親しまれています。豊かな阿蘇の伏流水や白川の恵みを受けた農業は、米、麦、野菜などが盛んです。特に、にんじんは国の産地指定を受け、「菊陽にんじん」のブランドで全国に出荷されています。

平成10年にオープンした菊陽杉並木公園“さんさん”、そして公園に隣接した菊陽町総合交流ターミナル“さんふれあ”は、都市的地域と農村的地域の交流が図られ、町民の憩いの場所となっています。

工業では、世界的な大企業が進出し、セミコンテクノパークを中心に一大工業地域を形成しており、さらなる町の活性化に繋がると期待されています。

統計にみる菊陽町の暮らし

世帯人口



16,909世帯 41,335人
1世帯当たり2.44人
(H30.3.31)

出生



506人 1日に1.39人
(H29年度)

死亡



278人 1日に0.76人
(H29年度)

転入



2,562人 1日当たり7.0人
(H29年度)

転出

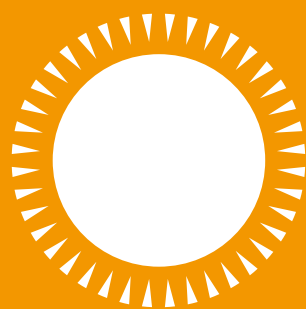


2,341人 1日当たり6.41人
(H29年度)

歳出



159億7,425万円
[41,335人]
1人当たり 386,458円
(H29年度)



kikuyo town

きくようまち
生活
便利帳

発行／菊陽町総合政策課企画政策係
〒869-1192 熊本県菊池郡菊陽町大字久保田2800番地

平成31年3月改訂



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用